

各関係機関団体の長 } 殿  
各病虫害防除員 }

福岡県農林業総合試験場長  
(福岡県病虫害防除所)

技術情報第 5 号

ナシ黒星病の発生について(第 2 報)

6月2半旬におけるナシ黒星病の発生量は、ほ場間の差があるものの多発した前年並でした。  
平成29年6月8日発表の気象予報によると、向こう1か月の降水量は平年並～やや多とされ、多発生の条件となっています。  
特に「幸水」の果実では開花後60日～80日にあたる6月中旬～7月上旬に感受性が再び高くなるため、今後の防除対策が重要になります。  
感染源となる罹病葉や罹病果は園外に持ち出し処分し、降雨前に防除を実施する等適切な対策実施に努めて下さい。

- 1 対象作物名：ナシ
- 2 病虫害名：黒星病
- 3 発生状況

6月2半旬調査における発病果率及び発生ほ場率は平年より高く、一部で発病果率が27%の多発ほ場が認められた(図1、表1)。

発病葉率 2.0% (平年 1.1%、前年 8.2%)  
発病果率 3.9% (平年 0.9%、前年 3.4%)  
発生ほ場率 85.7% (平年 36.3%、前年 63.6%)

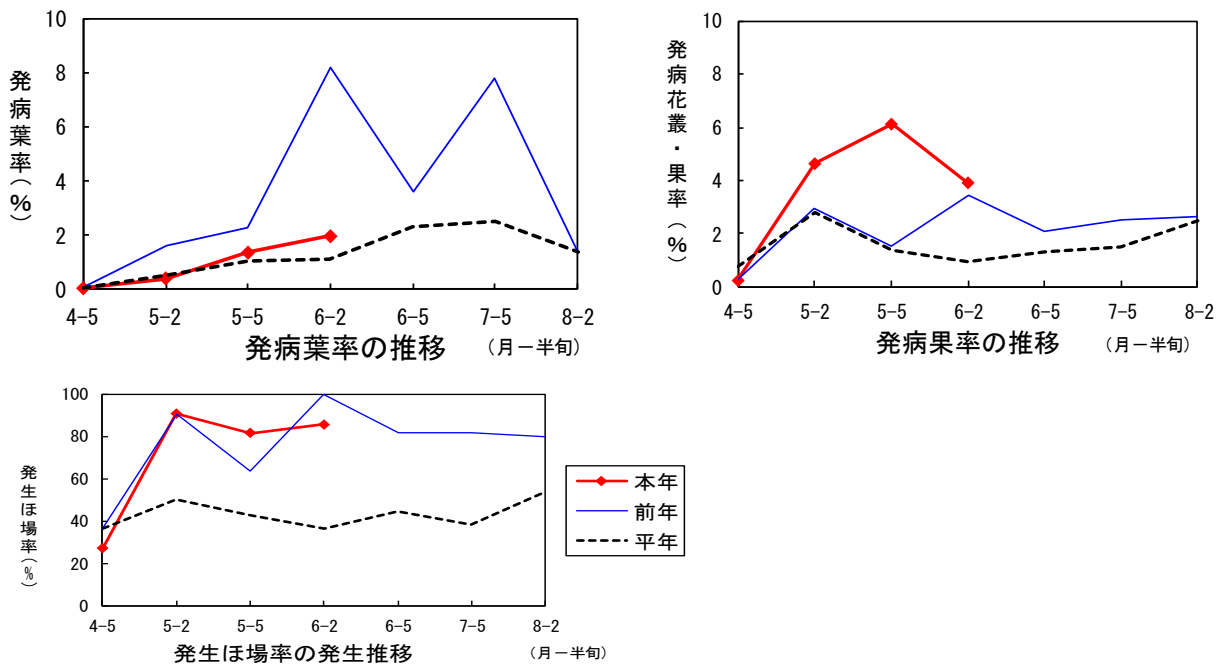


図1 黒星病の発病葉と発病果と発生ほ場の推移

表1 6月2半旬の黒星病の発病葉率、発病果率  
(単位：%)

地点	品種	発病葉率	発病果率
A	豊水	0.3	0.3
B	豊水	2.5	0.3
C	豊水	0	0
D	豊水	7.8	27.0
E	豊水	1.3	1.3
F	幸水	0.5	0.3
G	幸水	0.2	0.3
H	幸水	3.0	1.7
平均		2.0	3.9

#### 4 防除対策

- (1) 伝染源となる罹病葉や罹病果は、見つけ次第園外に持ち出し処分する。
- (2) 薬剤感受性の低下をさけるため、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。
- (3) 薬剤防除にDMI剤やQoI剤を用いる場合は、薬剤耐性菌の発生リスク低減のため年間の使用回数を遵守する。特にDMI剤を用いる場合は、保護殺菌剤と混用することにより防除効果の維持が期待できる（詳細は、平成29年度病害虫・雑草防除の手引き 3防除方法の試験研究成果等 果樹 VIIナシ黒星病菌のDMI剤感受性とDMI剤と保護殺菌剤の混用効果 (P28) を参照）。  
[http://www.pref.fukuoka.lg.jp/uploaded/life/254826\\_52472279\\_misc.pdf](http://www.pref.fukuoka.lg.jp/uploaded/life/254826_52472279_misc.pdf)
- (4) 「幸水」の果実は開花60日後以降、再び感染しやすくなるため、果実への感染防止に努める。



葉柄に発病したナシ黒星病（丸囲み部分）



肥大期にナシ黒星病に感染した果実

○病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。  
「福岡県病害虫防除所ホームページ」 <http://www.jppn.ne.jp/fukuoka/>



福岡県病害虫防除所  
最新の病害虫発生状況